

添付 3-1：モニタリング報告

事業開始直後より当会は、地雷回避教育の有効性をモニタリングするために、活動実施地域において KAPB 調査と呼ばれる事前・事後調査を実施してきた。2005 年 8 月 18 日現在の調査結果・そこから得られた教訓・今後の指針をここに報告する。

1. KAPB 調査について（目的と手法）
2. 調査結果
3. 今後に向けて

1. KAPB 調査について（目的と手法）

・目的

地雷回避教育が特定の地域・受益者に対して実施された場合、その結果として期待されるのは受益者の知識の変化(change in knowledge)と行動の変化(change in behavior)である。KAPB 調査とは Knowledge, Attitude, Practice, Behavior(あるいは Belief)の頭文字をとったもので、これら 4 項目をモニタリングするために地雷回避教育の実施前と実施後に無作為に抽出した受益者に対して質問を行い、その結果を見比べることで教訓(Lessons Learned)を導き出し、今後のプログラム作りの目安とするものである。

なお KAPB 調査は、あくまでもよりよいプログラムを作っていくための地雷回避教育活動の一環であり、地雷回避教育と知識・行動の変化との間に相関関係を見つけ出す統計学的調査ではないことをここで明記しておく。

・手法

KAPB 調査のために当会が使用した質問票は、当会のパートナー団体である MAG (Mines Advisory Group)が過去数年にわたりアンゴラの他地域で使用してきたものを、同団体の許可を受けて当会用に作り直したものである（添付 3-2）。

同質問票ではアンゴラの公用語であるポルトガル語が使われているが、2004 年 11 月に MAG アドバイザーにより実施された地雷回避教育員に対するトレーニングで記入ミスや不明瞭な回答が頻発したため、ルンダスル州で広く話されている言葉、チョクウェ語バージョンを作成した（添付 3-3）。質問票は村落に関するパートと KAPB に関するパートに分かれている。質問の詳細については和訳（別添 3-4）を参照のこと。

調査を実施する際は、各村の人口の 5～10%に当たる住民を無作為に抽出し、質問票にしたがってインタビューを実施するが、各村の正確な人数を示す統計は存在しないのが実情であり、通常は家屋数の 5～10%にあたる 10 数人から 50 人弱の住民に対してインタビューを行った。

今回のモニタリングに当たっては、質問票に記入された回答を「正しい認識」と「誤った認識」の 2 つにわけ、その割合をパーセンテージで表すことによって比較を試みた。

2. 調査結果

8月18日現在で、53村で事前KAPB調査を実施し、そのうちの10村で事後KAPBが終了している。今回の報告ではデータ集計の終わった Luzia、Mona Quimbundo 中央、Muachicuata、Pimbe、Sambao、Samujimo、Samutalala、Sauongo、Tchicucu の9村についての総合調査結果を示す。インタビューを行った人数は事前KAPBで185人、事後KAPBで182人であった。なお前項で無作為に抽出したとあるとおり、事前調査・事後調査において、各村において必ずしも同じ人々に対して行ったものではないことを明記しておく。

各設問の結果は以下のとおりである。

【問1】は村の名前や位置、住民の名前・年齢・職業などの個人情報を知る質問であり、本報告からは除外した。

【問2】地雷・不発弾について今までに何か聞いたことはありますか？¹

答：はい・いいえ

(結果)

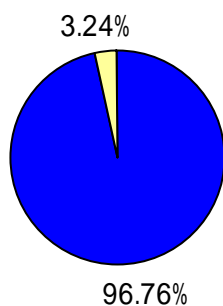
正しい認識と誤った認識に分類できる性質の質問ではないため、今回のデータ集計からは除外した。

【問3】地雷・不発弾はあなたをどのようにしてしまうか知っていますか？

答： (正) 殺す・怪我をさせる

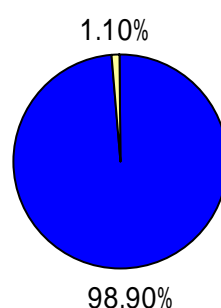
(誤) 何もしない・分からない

問3：調査前



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

問3：調査後



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

¹ 質問はポルトガル語がオリジナルである。

(結果)

上記の表が示すように、住民の多くが当会の事業実施前より、地雷・不発弾の性質について認識していたと思われる。

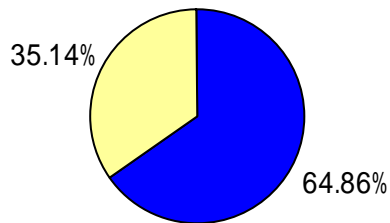
【問4】地雷や不発弾はどのような場所にありますか？

答：

(正) 塹壕・基地・壊れた橋・川辺・水源・動物の死体の近く・壊れた車両・以前事故があった場所・棄てられた武器の近く・基地跡

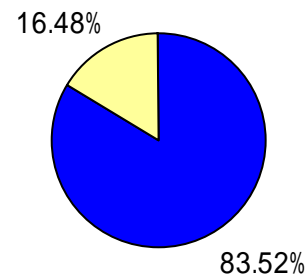
(誤) 分からない

問4：調査前



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

問4調査後



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

(結果)

地雷回避教育実施前と後とで顕著な伸びが確認された。

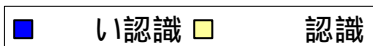
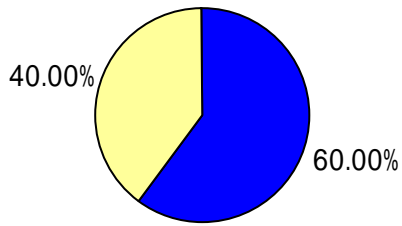
【問5】地雷や不発弾はどのようにしてマークがしてありますか？

答：

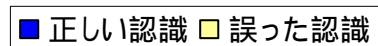
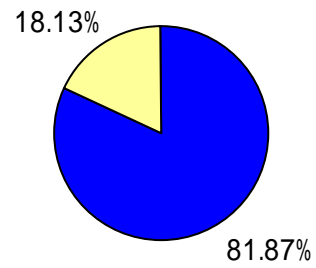
(正) 国際標識・有刺鉄線・色を塗った木・交差した骨の上に頭蓋骨・赤白のテープ・交差させた石・編んだ草・木に縛り付けられた布・棒の上に缶・石を積み上げたもの・交差させた枝

(誤) 分からない

問5: 調査前



問5: 調査後



(結果)

地雷回避教育実施前と後とで顕著な伸びが確認された。

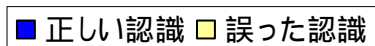
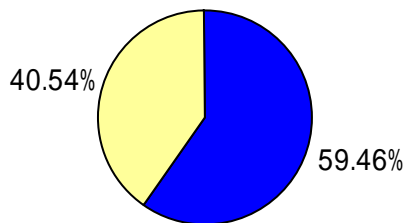
【問6】地雷のマークを見たらあなたはどうすべきですか？

答：

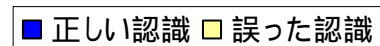
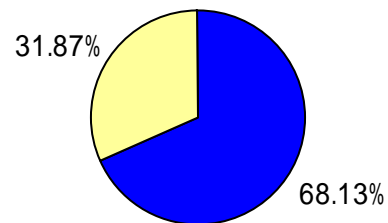
(正) 近づかない・他の人に危険を伝える

(誤) そのまま進む・無視する・家に持ち帰る・分からない

問6: 調査前



問6: 調査後



(結果)

地雷回避教育実施前と後とで顕著な伸びが確認された。

【問7】安全地帯で地雷や不発弾を見かけたらあなたはどうすべきですか？

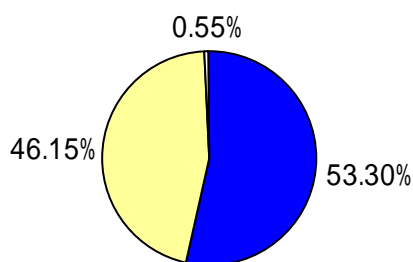
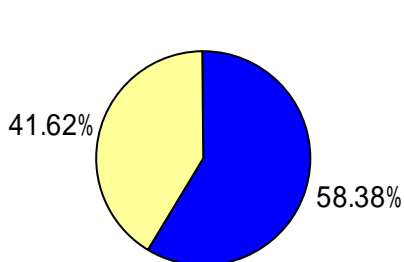
答：

(正) 家族や友人に知らせる・関連機関に知らせる・手近なものを使って印をつける

(誤) 逃げる・地雷や不発弾を関連機関に持っていく・地雷や不発弾を家に持ち帰る・
分からない

問7：調査前

問7：調査後



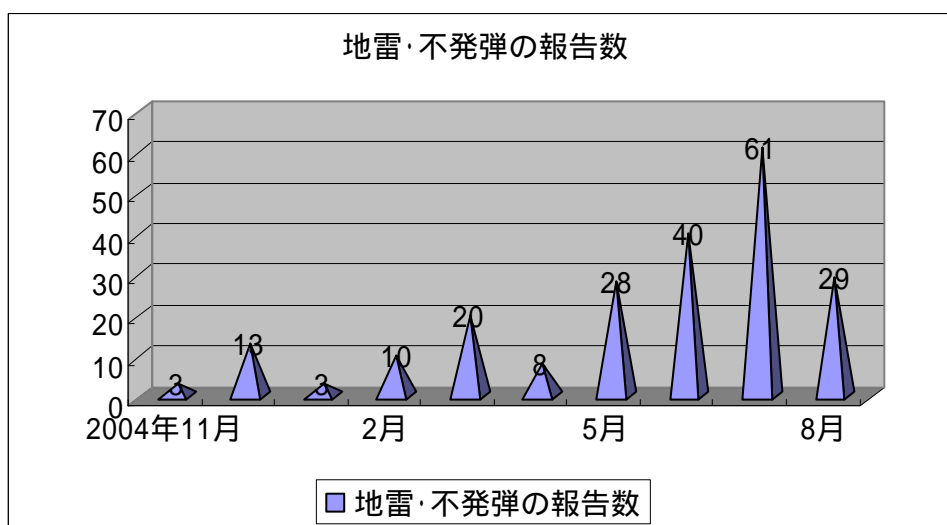
■ 正しい認識 ■ 誤った認識

■ 正しい認識 ■ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

地雷回避教育後に認識力に悪化が見られた。問7は既に位置が認識されている地雷・不発弾を見かけた時の行動を問うもので、手元にある材料でマーキングを施し、村長や政府機関・NGO に速やかに報告する、というのが適切な回答であった。しかしながら、当会では未知の地雷原に入ってしまったとき、そこから一步も動かないこと、というメッセージを伝えてきているため、質問の裏にある意図が複雑過ぎて、回答者が混乱した可能性がある。

しかしながら、下の表【地雷・不発弾の報告数】に見られるように、住民からの地雷・不発弾の当会への情報提供は活動が軌道に乗った5月以降、飛躍的に増えており、当会のメッセージが着実に浸透してきていることをうかがわせるデータも存在している。



註：8月の数字は8月18日までのもの

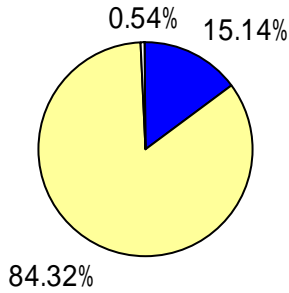
【問8】地雷原にいると気づいた時、あなたはどうすべきですか？

答：

(正) 動かずに助けを求める

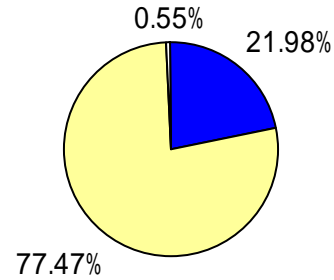
(誤) 安全な場所に移動する・気をつけて来た道を戻る・分からない

問8：調査前



■ 正しい認識 □ 誤った認識 □ 無効な回答

問8：調査後



■ 正しい認識 □ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

着実な伸びを示しているが、全体的な認識はまだまだ低いといえる。

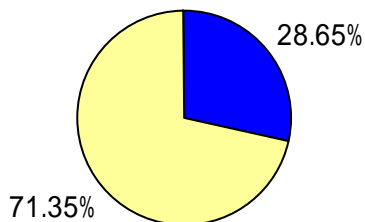
【問9】あなたの家族や友人が地雷原の中に入ってしまったら、あなたはどうすべきですか？

答：

(正) 専門家を呼ぶ / 探す・関連機関に知らせる・村に知らせに行く

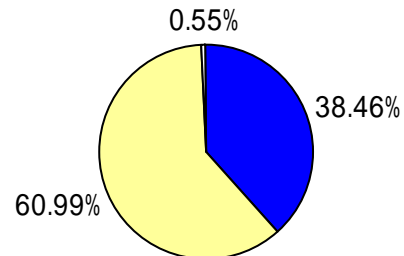
(誤) 助けに走る・逃げ出す・分からない

問9：調査前



■ 正しい認識 □ 誤った認識

問9：調査後



■ 正しい認識 □ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

顕著な伸びを示しているが、全体的な認識はまだまだ低いといえる。

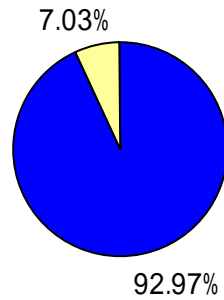
【問10】地雷はどの様になると爆発しますか？

答：

(正) おもちゃにして遊ぶ・部品を取り出そうとする・燃やす・踏みつける・取り外そうとする・ワイヤーを引く・動物が踏む

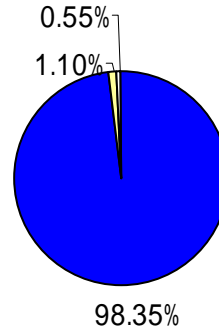
(誤) 分からない

問10: 調査前



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

問10: 調査後



■ 正しい認識 ■ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

この問いの答えに対する認識は当初から高かったが、当会の地雷回避教育によって正しい認識を行き渡らせることができた。

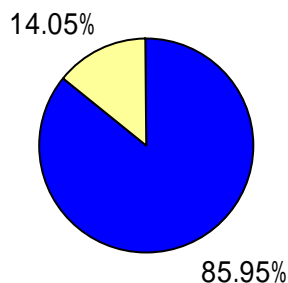
【問11】不発弾はどの様になると爆発しますか？

答：

(正) おもちゃにして遊ぶ・部品を取り出そうとする・燃やす・踏みつける・取り外そうとする・ワイヤーを引く・動物が触る

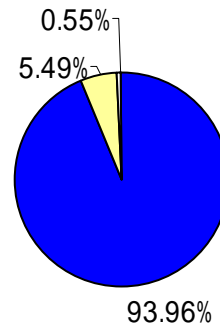
(誤) 分からない

問11: 調査前



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

問11: 調査後



■ 正しい認識 ■ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

この問いの答えに対する認識は当初から高かったが、当会の地雷回避教育によって更なる認識力の底上げを図ることができた。

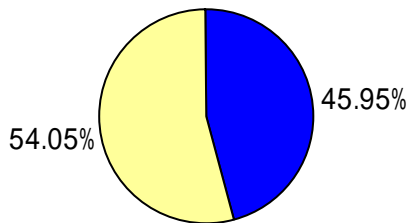
【問12】どの様にすれば地雷や不発弾の事故を防げますか？

答：

(正) 自分の知っている道や既に使われている道を歩く・地元の人に危険な場所について聞く・危険と思われる場所には近づかない

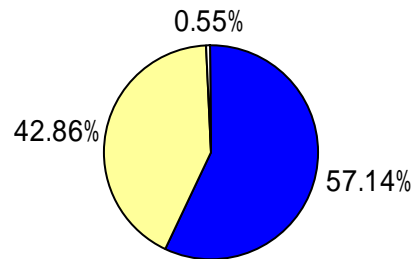
(誤) 分からない

問12: 調査前



■ 正しい認識 ■ 誤った認識

問12: 調査後



■ 正しい認識 ■ 誤った認識 □ 無効な回答

(結果)

過半数が正しい認識を持つようになり、着実な伸びを示している。

【問13】なぜあなたの村の人々は危険な地域に立ち入りリスクを犯すのですか？

(結果)

この問に関しては、答えを恣意的にネガティブな方向へ導き出す問いかけであると判断したため、今回のデータ集計からは除外した。

3. 今後に向けて

問7を除くすべての質問で、正しい認識をしている回答が増えたことは、当会の担当地域の住民の地雷・不発弾に対する認識が底上げされていることを示していると思われる。したがって当会が第一期を通して行ってきた地雷回避教育の全般的な方針が間違っていなかったことを裏付けているともいえよう。

しかしながら実際の行動を問う問8の「地雷原にいると気づいた時、あなたはどうすべきですか?」や問9「あなたの家族や友人が地雷原の中に入ってしまったら、あなたはどうすべきですか?」のように、依然として半数以上の住民が誤った認識を持っている項目もあり、地雷・不発弾に対する「知識の変化」は顕著であるものの、それが「行動の変化」に変わっていくまでには更なる努力が必要とされることが明らかになった。

また、問7「安全地帯で地雷や不発弾を見かけたらあなたはどうすべきですか?」の結果が示しているように、回答者に混乱を招く質問や、問13「なぜあなたの村の人々は危険な地域に立ち入るリスクを犯すのですか?」のようにネガティブな回答しか導き出せず、今回のモニタリングに活用することができなかった質問など、現在使用している質問票も依然改良の余地があることが明らかになった。

以上の結果・教訓を踏まえて、当事業2期目は以下のような方針で地雷回避教育プログラムを実施していく。

1. 地雷・不発弾に関する全体的な認識は着実に向上していることが明らかになったため、現状の教育手法・教材に大きな変更は加えない。
2. 村落レベルで実際の地雷回避教育を行う際、地雷・不発弾を発見したときの対処法についてのメッセージ伝達に重点を置いた活動を行っていくこととする。
3. 事業1期目に訪れた村落での事後KAPBを完了させ、今後の統計調査のための基礎資料として地雷問題調整委員会に提出する。
4. 上記3.に関連して、認識が悪化したとされる問7.について、教育手法に誤りはなかったか、分析を行い、改定し、新しい地域での調査に反映させる。
5. 同じく上記3.に関連して、混乱を招く質問・恣意的な質問について質問票の改定を行い、新しい地域での調査に反映させる。

以上